



岩城實記

三

^ 13
3316
3



門へ13
3316
3



岩嶽実純巻之三

目録

三浦義村と夜あつらひと金澤あつらひと

向の事あつらひ

金澤太市廣流大云の事あつらひ

子代徳照存公の事あつらひ

正十年八月廿九日
本大學出版部

岩田実龍巻之二

三浦義村奥列りの合津大所

大云の事

子代能服者正の事

初〜結城初光の家人の討り

きき〜のき人 湯釜をせぬり 毒酒

物産〜はまは一門の人〜

恨しき事なきを海匠
安しき事なきを海匠
何年しき事なきを海匠
江の廣元とあり
船元とあり
大急事とあり
海匠とあり

あり智勇徳あり
らむんば叶はぬ
義村とあり
おきばあ人
大急事とあり
年満とあり
あり志我とあり
ありとあり

是の事... 於此にあや
ま... 筋...
軍... 民と若...
恩賞の... の...
再... の...
... 衆と攻...
... 今...
...

や... 長太山の...
... 衆
あり... 重の云
... 衆を...
... 一統...
... 筋...
... 志...
... 一... 筋...
...

龍尾と和らげ世のまゝ承継せりとも。
いづらのあひまはさうら礼賢と失ふ
そりし麻札のけ敷皮もた
俊のあひまはさうら
あまは三河義村存よあまのいさくも
我若元暦文治の義礼と云川海
一元は改め長百歳と唄く定春清代
いづれも恥ぢるべしと云く田曹と

常々と愛ふ物
のけ敷と忘御
むらあひまのいさく
公命のまゝに
西國のあまの志物と云く
山科の國と云くあまのいさく
彼國のいさく
長月と云く



和人のまゝに事蹟を記し
て徳を以ては廣く是を
知しし事蹟の後
例の如くも
子役の如くも
何れも此の如く
あはれ軍勢と
んてぬいどや
重士十萬の
云々

けきと事蹟の如く
此邊と後
まゝ今も
後之諸事
不義なる事
何れも此の如く
骨圓なる花

たの海に... 一人教別... 民材... 喉と舌... 廣流... 次々と... 此... 一... 一... 一...

人... 法... 和... 廣... 教... 廣... 是... 君...

そとくしんまら奥羽あつれの黄旗ありむる
しんまら君の西園光とらむる
珠羅すの事やとやとる
なご云すもは君安の
たごめぬや
志列す
今軍云
我は光と
是の再反和勝と

せごの事何の道り
一条次第と
光と
君と
志列す
廣流も
とらむる
光と

本蕃の臣の人質を所へ置くは
運意とありの至國と切らざる
勢の度なきよりすてて天中と
しつむぞもあかぬとて
友國のよのよもさるる地集り
かちの属する事ある軍兵
去るまゝすてて彼夫の
田舎を益再意海に
君何ゆ侍

夫人よ奉の氏とんく
中殿元の輝きたに
新くはあひせし古
よのいふとる光
め
か
君の長と憐
天中の中事
君の長と憐

ながさくよとらるるをゆとらづううよきつら
く市販しゆらうら金律よりして又上
とよもなひてゆらううあひひ入はく
のうひひらまはゆと人きう務らうまひ
あきよのよらひひり二相とらう款
の市智仁勇とゆらう又上と款のより
あはゆらうの市勇年ともゆらう
何ぞをき陰東まらうりゆらう入と又上

の志とがらみとんたうのとき人の母
あきゆらうの市勇年ともゆらう
何ぞをき陰東まらうりゆらう入と又上
根のやあけゆらうひらう
と流しゆらうの市勇年ともゆらう
甲斐の市勇年ともゆらう
武士の市勇年ともゆらう
市勇年ともゆらう
ゆらう

つらあひのひらふちあひのまふひの奉
し初まて又まての事の時
まての事の時
おびに款は是月と流しきふか出月の考
公祚佛も憐れ由りて長途の際り
ちてははは作事しきふか初年より
那男殿の長谷寺の御世をわたり候公
美目おは又今一財向とせむと

おびのひらふちあひのまふひの奉
まての事の時
おびに款は是月と流しきふか出月の考
公祚佛も憐れ由りて長途の際り
ちてははは作事しきふか初年より
那男殿の長谷寺の御世をわたり候公
美目おは又今一財向とせむと

たりのまての事の時

岩城実光卷之二

日本小亦在事言麻以
奇茲之今室積而
本城如守言麻

